

第8章 河道特性

8-1 釧路川の諸元

釧路川は、北海道東部の太平洋側に位置し、その源を藻琴山（標高 1,000m）など屈斜路カルデラの外輪山に発し、カルデラ湖の屈斜路湖から流れ出て、弟子屈原野を流れ、弟子屈町で鑑別川、標茶町でオソベツ川等の支川を合流し、釧路湿原に入り、さらに久著呂川、雪裡川等の支川を湿原内で合わせ、岩保木地点において新釧路川となり釧路市街地を貫流し、太平洋に注ぐ、幹川流路延長 154km、流域面積 2,510km² の一級河川である。

■上流域（屈斜路湖から弟子屈市街部付近）

河床勾配が 1/1,000 程度であり、針葉樹と広葉樹の針広混交林と屈斜路湖が雄大な北国の自然景観を形成し、また硫黄山と山麓の高山植物が特徴的な自然景観を形成している。

■中流域（弟子屈市街部付近からオソベツ川合流点付近）

河床勾配が約 1/200～1/1,200 であり、流域の基幹産業を支える約 5 万 ha の広大な酪農地帯が広がり、釧根地域の代表的な景観を形成している。

■下流域（国内最大の湿原である釧路湿原から新釧路川河口部まで）

河床勾配が 1/3,000～1/8,000 となっており、釧路湿原においては多くの河川が蛇行しながら流下する壮大な原自然の景観が形成され、約 2,000 種の野生生物の生息・生育の場となっている。

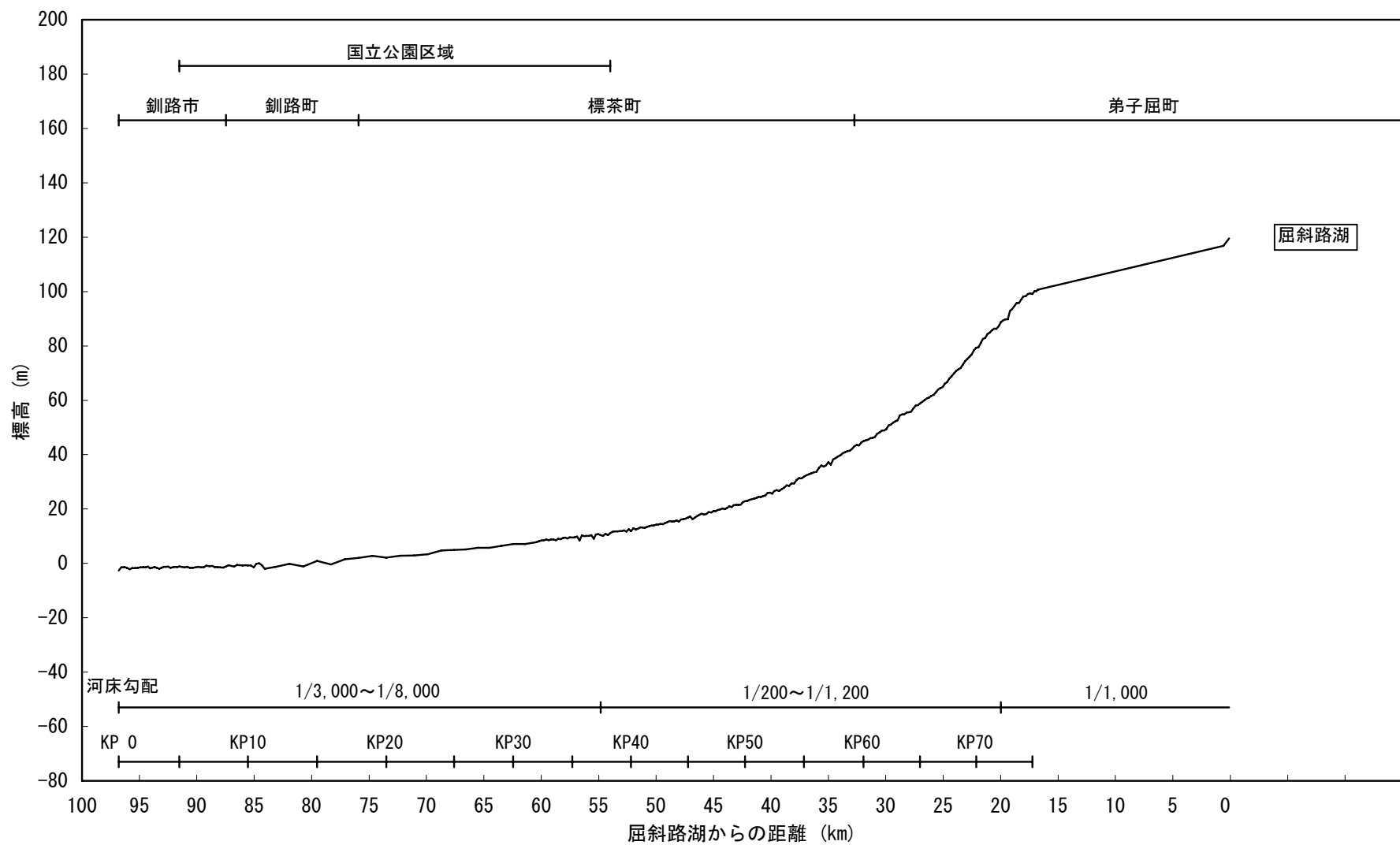


図 8-1 釧路川 河床高縦断面図